

病害診断の現場から—リゾクトニア病と軟腐病—

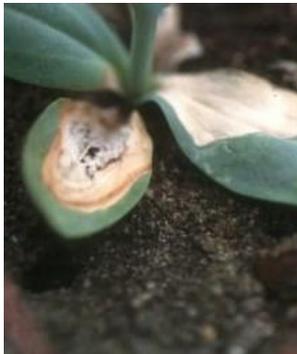
診断依頼のあった事例を紹介します。前号では卵菌類による病害を掲載しましたが、同じく**5～6月の多雨傾向**により発生が際立ったものに、**リゾクトニア菌**による病害の発生がありました。



1. キャベツ株腐病：5月18日にキャベツの葉腐れ症状が持ち込まれました。灰黒色～黒褐色の不整形病斑上にはリゾクトニア菌の菌糸が密に観察されました。病徴が進展すると、病斑上に菌核が形成されます。通常、腐敗は数葉にとどまり内部まで進行しませんが、軟腐病菌による二次腐敗で、結球全体が軟化腐敗するものもありました。



2. レタスすそ枯病：6月19日にレタスの下葉枯れの症状(左)が持ち込まれました。被害組織上にはリゾクトニアの菌糸が密に観察されました(右)。黒く蛇行しているのは葉脈です。



*** リゾクトニア病の発生要因**：
土壌の過湿が発病を助長します。画像は以前に発病したトルコギキョウ株腐病(左)ですが、畝をみると(右)、手前の側面がやや黒く写っています。同じ畝でもわずかに水分が多い手前側にだけ、発病が見られました。

また、**本年5月～7月**にかけて、継続して発生が目立っているのは細菌性の**軟腐病**です。菌の生育最適温度は30℃、最高40℃であり、**5月中旬以降の高温傾向**が発病を助長しています。傷口や気孔・水孔などから感染し、食用性害虫の食害痕や、多病害による枯死部からも二次的に腐敗をおこします。独特の悪臭(軟腐臭)がすること、細菌細胞に運動性があること、が診断のポイントです。

「運動性」というのはその場でユラユラしている(ブラウン運動)のではなく、スクリュウ状に直線的に泳いでいきます。以下にこれまでの診断事例を列記します。今後も更なる発生が懸念されます



- 5月11日：タマネギ ベと病から二次腐敗
- 5月18日：キャベツ 株腐病から二次腐敗
- 6月14日：トマト 茎枯れ症状、ずい部の消失
- 6月15日：フリージア 球根腐敗症状
- 7月9日：ジャガイモ 塊茎腐敗症状、乾腐病から二次腐敗(左図)
- 7月13日：キュウリ 根腐症状 疫病から二次腐敗